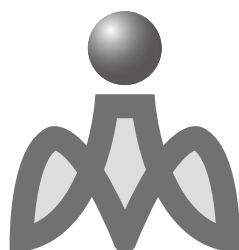


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔2019年4月～6月実績〕
〔2019年7月～9月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第1四半期 2019年4月～6月期 「調査時点：2019年6月1日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サ ー ビ ス 業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	52	165

5. そ の 他

①本報告書のDIとは、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

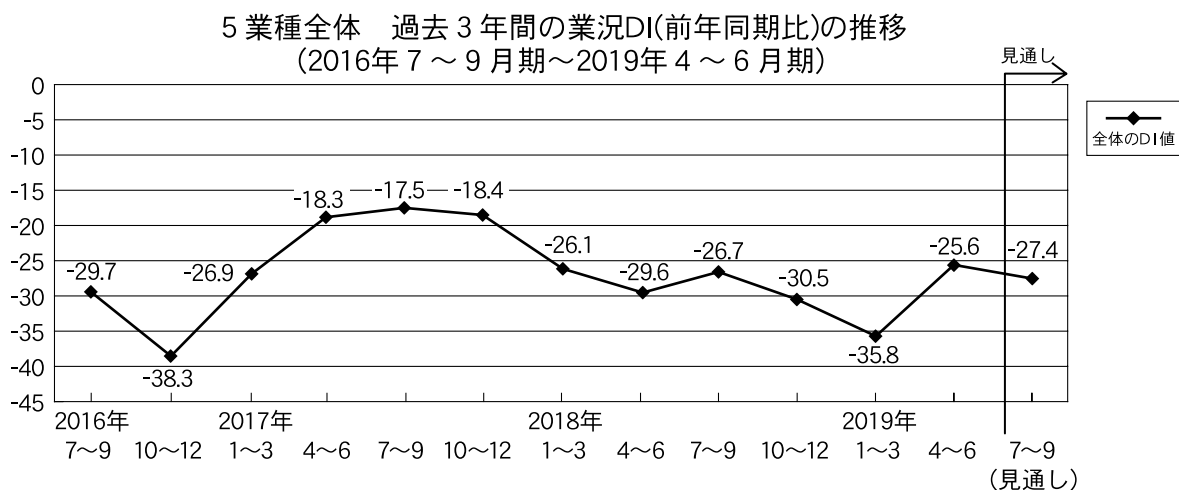
②次頁【II】1. 産業全体の業況概観については、商工会調査企業ばかりでなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ285サンプルによるものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断D I、及び、産業別の業況判断D Iについてみる。

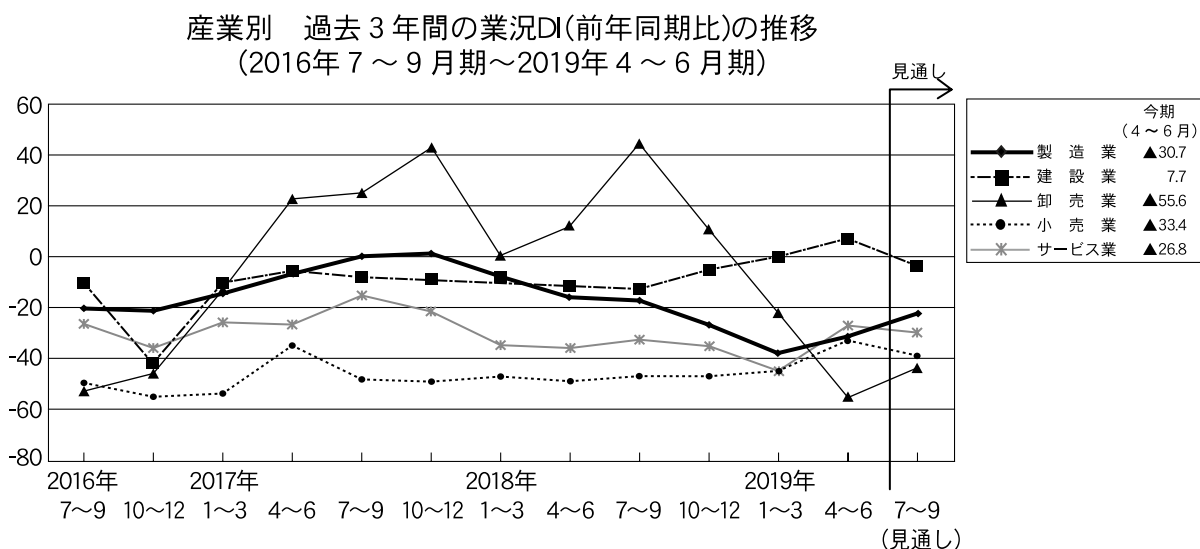
まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断D Iである。今期の業況判断D Iは、▲25.6と前期比で10.2ポイント改善している。一方、来期については、▲27.4へと若干ながら悪化する見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断D Iである。

製造業が▲30.7と前期比で7.0ポイント、建設業が7.7と前期比で7.7ポイント、小売業が▲33.4と前期比で11.5ポイント、サービス業が▲26.8と17.8ポイント改善している。一方、卸売業は▲55.6と前期比で33.4ポイント悪化している。

来期は、製造業、卸売業が今期より改善する見通しであるが、建設業、小売業、サービス業は悪化の見通しとなっている。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの121企業を含めた286サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況D Iについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

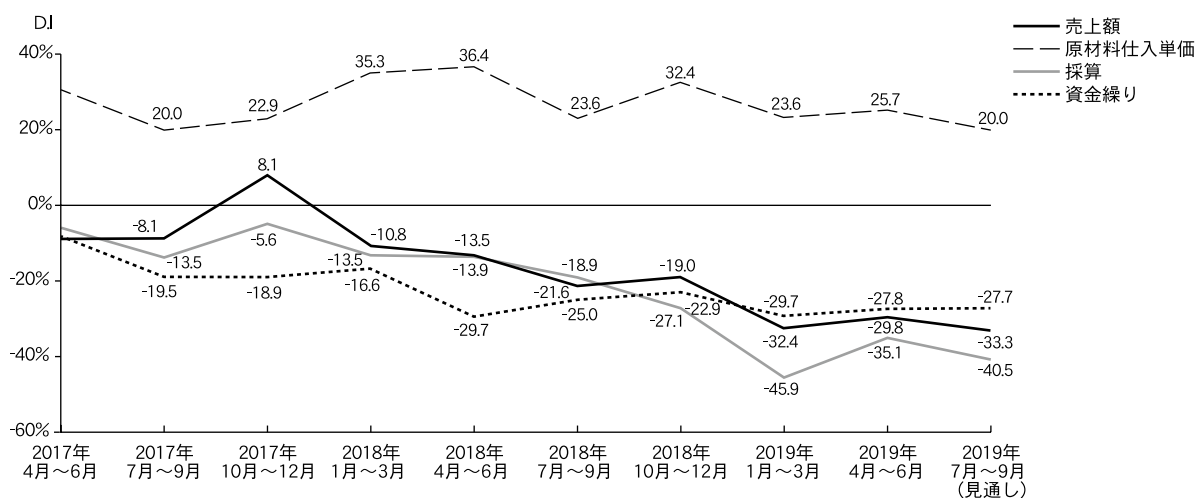
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲29.8と前期比で2.6ポイント改善したものの、来期は▲33.3と悪化する見通しである。原材料仕入単価D Iは、今期は25.7と前期比で2.1ポイント上昇（悪化）している。一方、来期は20.0と改善の見通しである。採算D Iは、今期は▲35.1と前期比で10.8ポイント改善しているものの、来期は▲40.5と再び悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲27.8と前期比で+1.9ポイントと僅かながら改善。来期は▲27.7でほぼ横ばいの見通しある。

今期は、悪化傾向の続いていた採算D Iが17年10～12月期以来の改善となり、原材料仕入単価D I以外は改善している。来期は、原材料仕入単価D Iは改善するものの、売上額D I、採算D Iは悪化、資金繰りD Iは横ばいの見通しである。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－

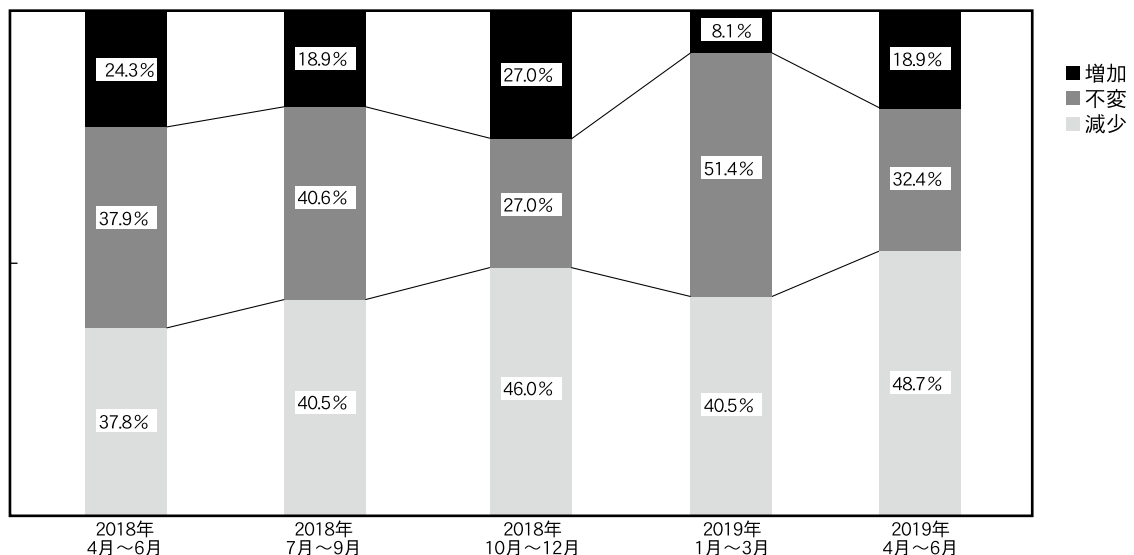


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社））

「増加」と答えた企業の割合は、18.9%（7社）と増加（前期比+4社）している。「不変」は32.4%（12社）と減少（前期比▲7社）、「減少」は48.7%（18社）と増加している（前期比+3社）。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－

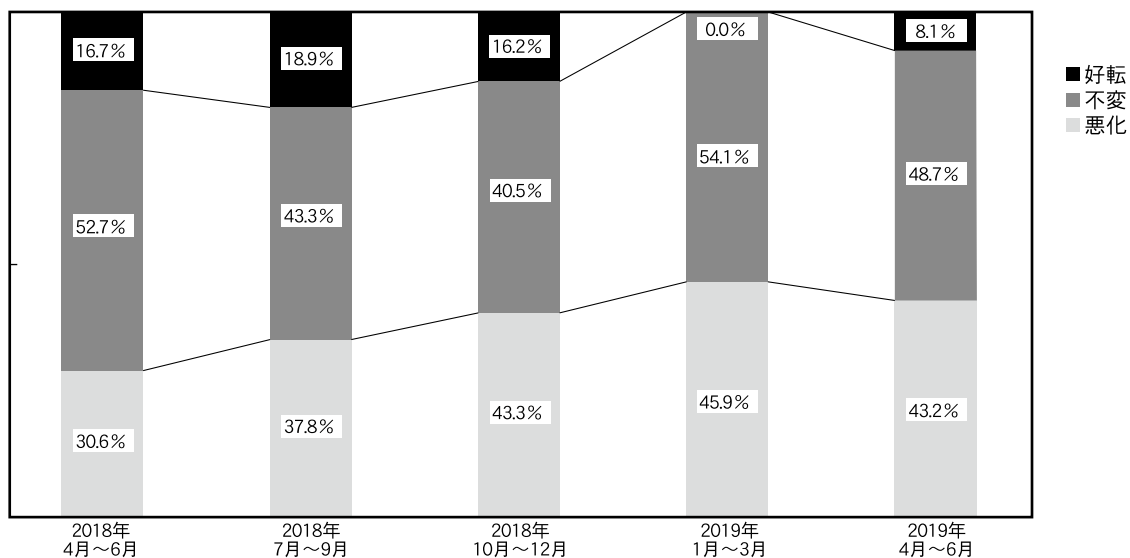


② 採算（採算D I の内容（回答企業数37社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.1%（3社）と増加している（前期比+3社）。「不変」は48.7%（18社）と減少（前期比▲2社）、「悪化」は43.2%（16社）と減少している（前期比▲1社）。

山梨県 製造業 採算の状況—前年同期比—

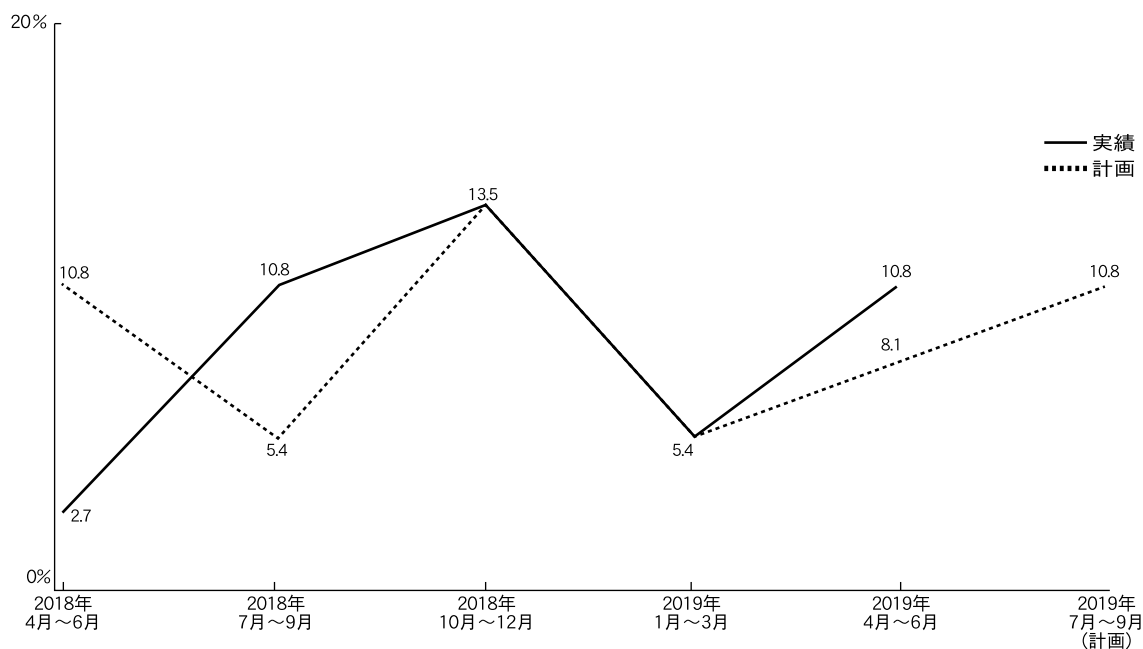


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は10.8%（4社）であった。その設備投資の内容は、「工場建物」「車両・運搬具」が1件ずつ、「その他」が2件になる。

来期の計画についても、10.8%（4社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」が2件、「工場建物」「付帯設備」「福利厚生施設」「その他」が1件ずつになる。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数31社）

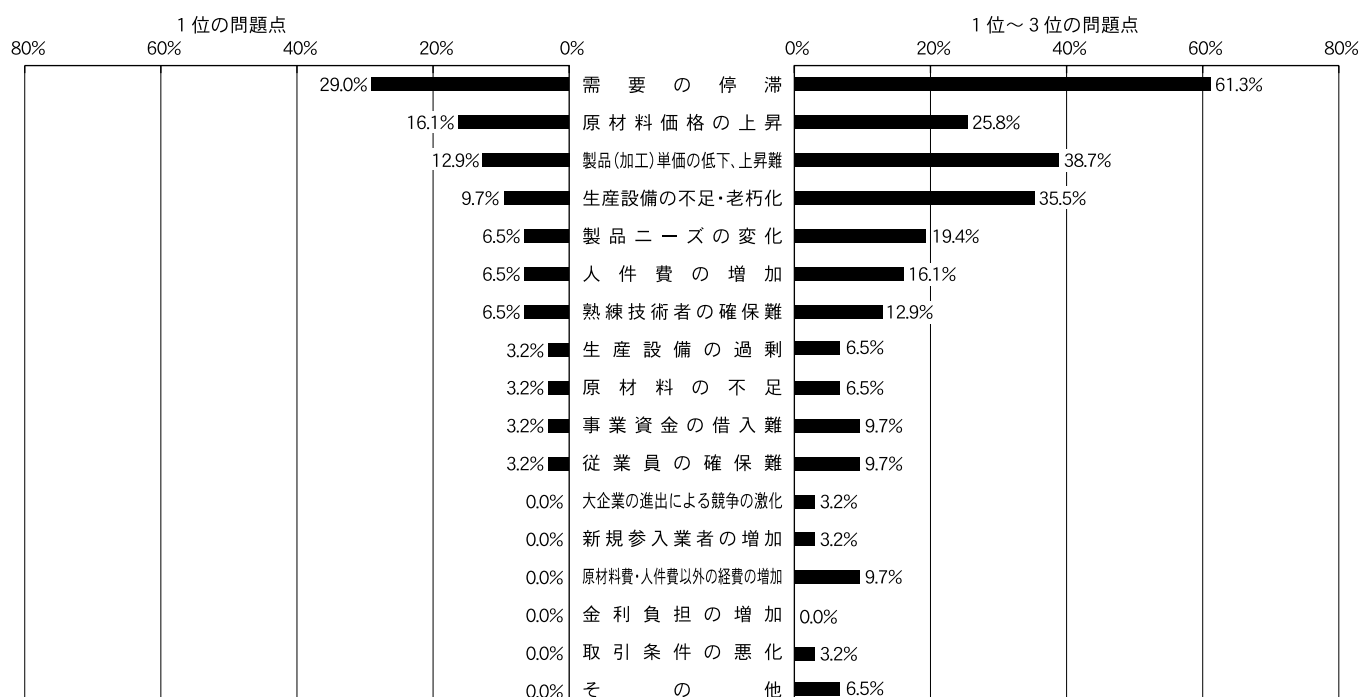
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の29.0%（9社）であり、2番目は、「原材料価格の上昇」の16.1%（5社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の61.3%（19社）であり、2番目は、「製品（加工）単価の低下、上昇難」の38.7%（12社）である。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	6	16.2
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
衣服・その他繊維製品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	2	5.4
一般機械器具製造業	14	37.8
電気機械器具製造業	2	5.4
輸送用機械器具製造業	0	0.0
その他製造業	4	10.8
合計	37	100.0

従業員規模別

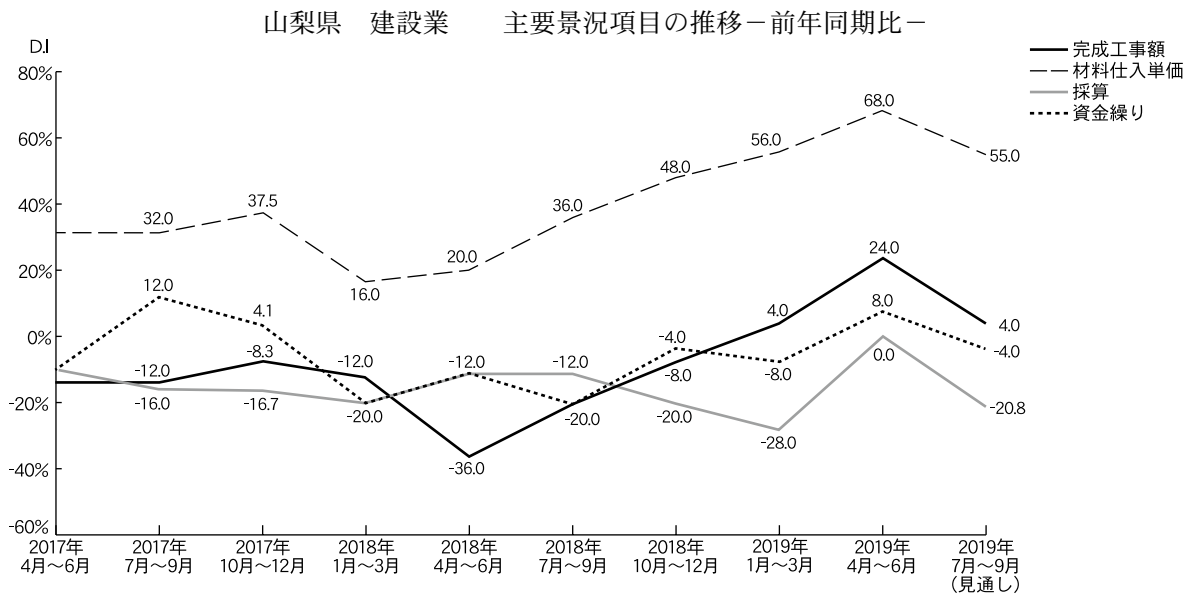
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	20	54.1	17	45.9
3人～5人以下	7	18.9	5	13.5
6人～10人以下	6	16.2	10	27.0
11人～20人以下	4	10.8	5	13.5
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期は24.0と前期比20.0ポイント改善しているものの、来期は4.0と悪化する見通しである。材料仕入単価D Iは、今期は68.0と前期比12.0ポイント上昇（悪化）している。一方、来期は55.0と低下（改善）する見通しである。採算D Iは、今期は0.0と前期比28.0ポイント改善しているものの、来期は▲20.8とまた悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は8.0と前期比16.0ポイント改善しているものの、来期は▲4.0と悪化する見通しである。

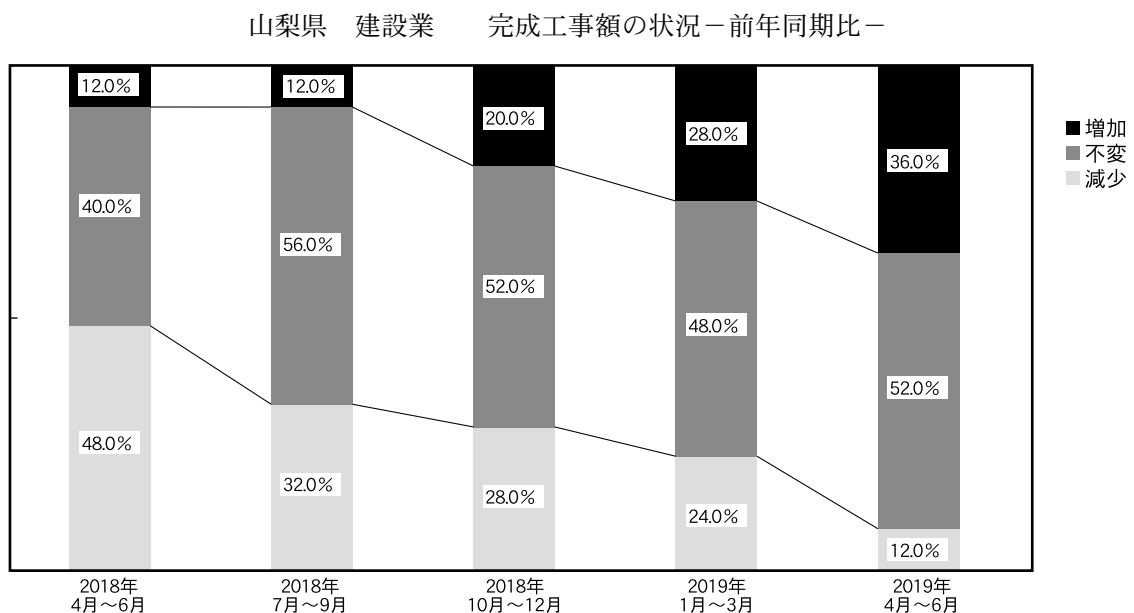
今期は、材料仕入単価D Iを除いて改善している。来期は、材料仕入単価D Iを除いて悪化する見通しである。



(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数25社））

「増加」と答えた企業の割合は、36.0%（9社）と増加（前期比+2社）。「不変」は52.0%（13社）と増加（前期比+1社）、「減少」は12.0%（3社）と減少している（前期比▲3社）。

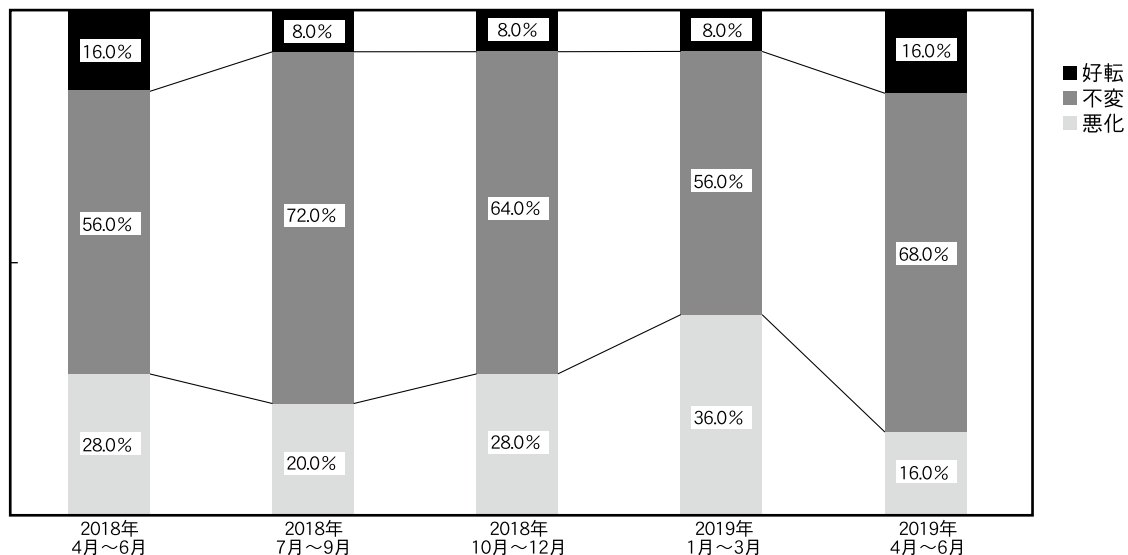


② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、16.0%（4社）と増加（前期比+2社）。「不変」は68.0%（17社）と増加（前期比+3社）、「悪化」は16.0%（4社）と減少している（前期比▲5社）。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

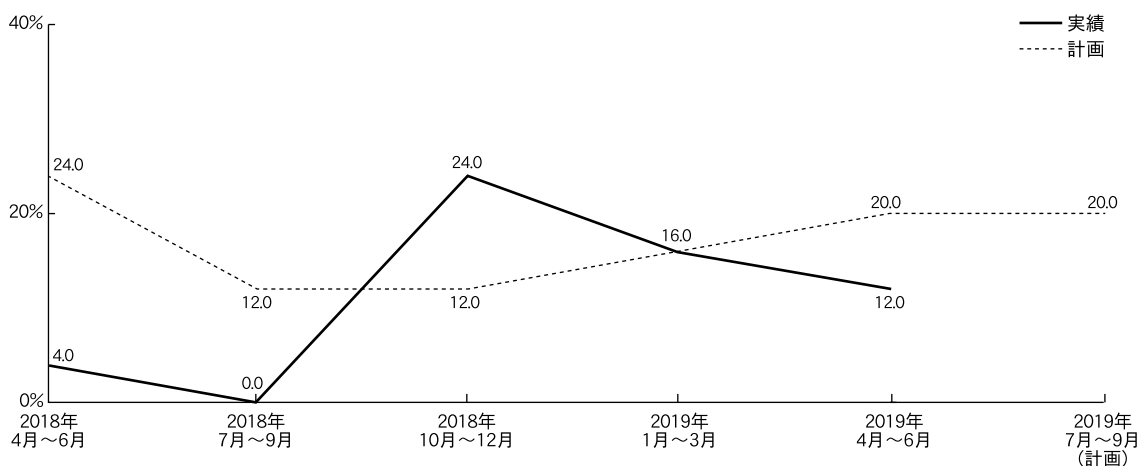


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は12.0%（3社）であった。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が2件、「土地」「OA機器」「その他」が1件ずつになる。

来期の計画については、20.0%（5社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「土地」「OA機器」が2件、「建物」「建設機械」「車両・運搬具」が1件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数23社）

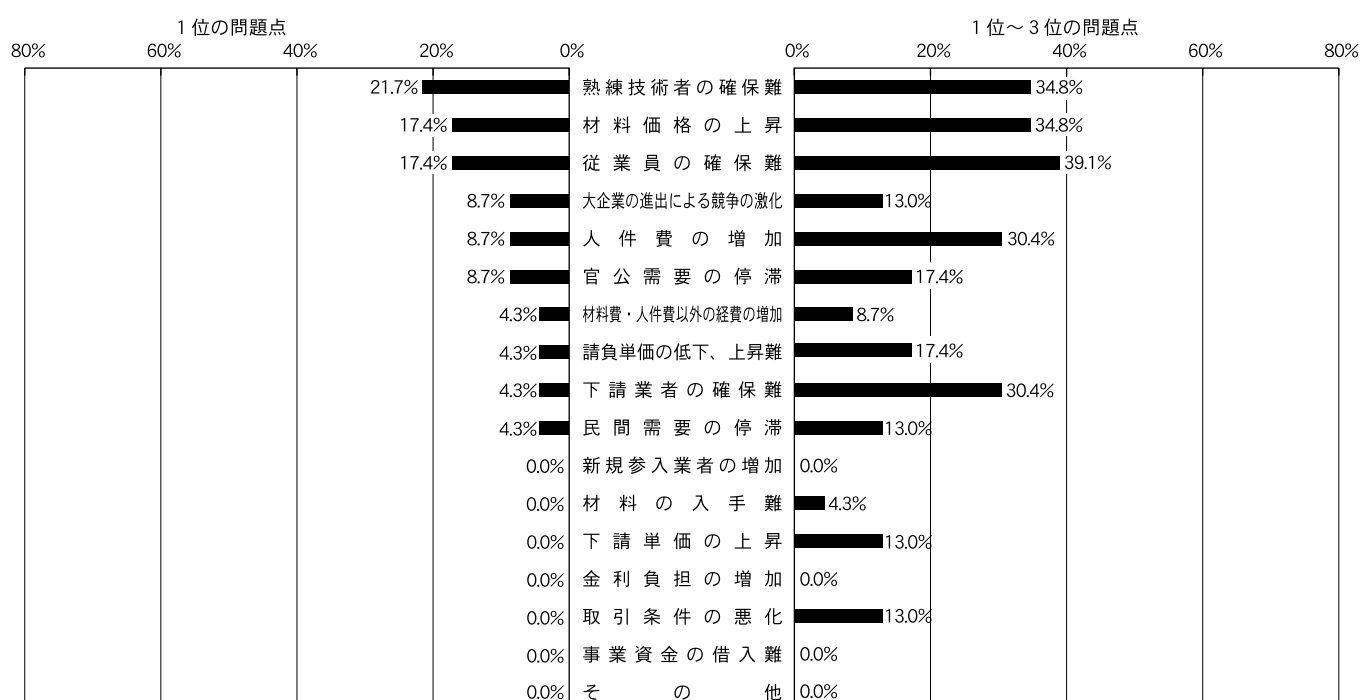
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「熟練技術者の確保難」の21.7%（5社）であり、2番目に多かったのは、「材料価格の上昇」と「従業員の確保難」とが同率の17.4%（4社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「従業員の確保難」の39.1%（9社）であり、2番目に多かったのは、「材料価格の上昇」「熟練技術者の確保難」とが同率の34.8%（8社）である。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	3	12.0
設備工事業	3	12.0
合計	25	100.0

従業員規模別

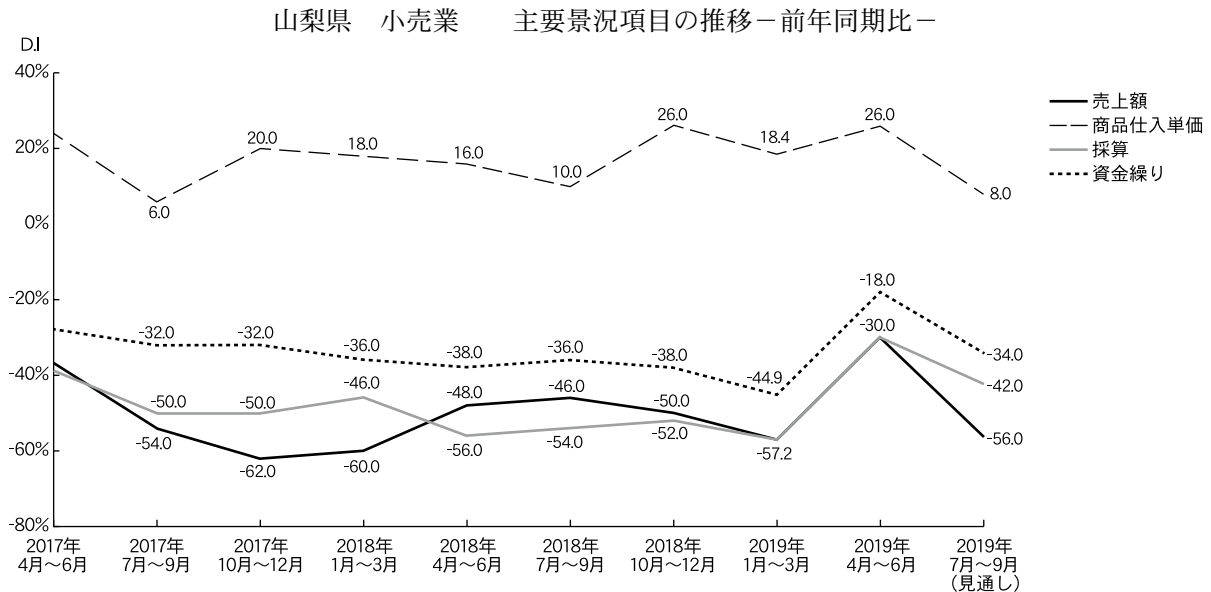
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(%)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	7	28.0
3人～5人以下	7	28.0	9	36.0
6人～10人以下	4	16.0	4	16.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
合計	25	100.0	25	100.0

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲30.0と前期比で27.2ポイント改善しているものの、来期は▲56.0と再び悪化する見通しである。商品仕入単価D Iは、今期は26.0と前期比で7.6ポイント上昇（悪化）している。一方、来期は8.0と下降（改善）する見通しである。採算D Iは、今期は▲30.0と前期比で27.2ポイント改善しているものの、来期は▲42.0と悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲18.0と前期比で26.9ポイント改善しているものの、来期は▲34.0と悪化する見通しである。

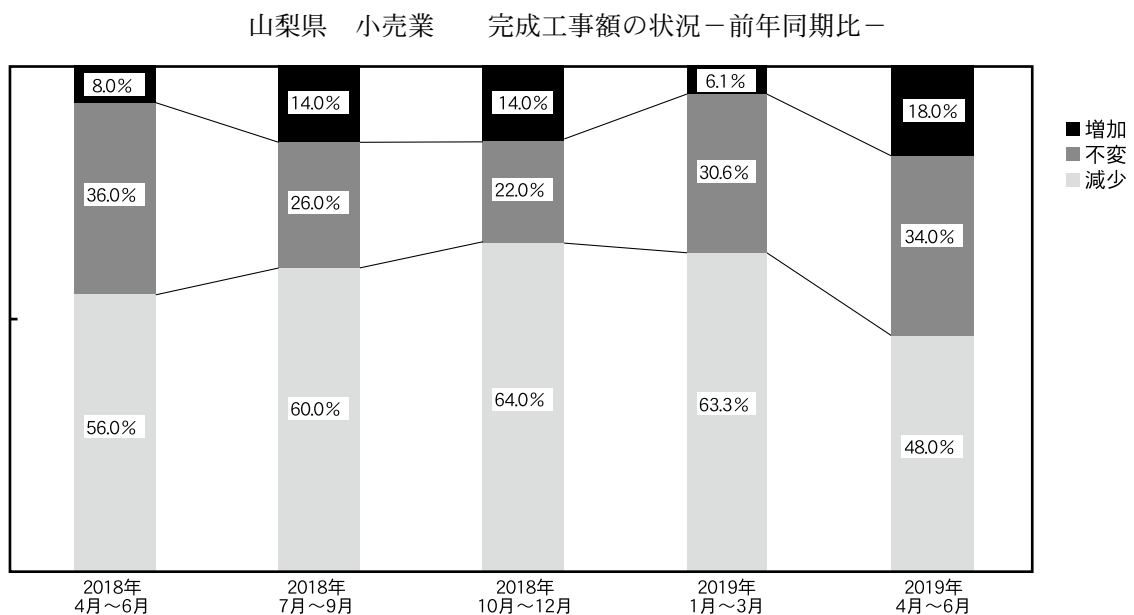
今期は、商品仕入単価D Iを除いて改善している。一方、来期は、商品仕入単価D Iを除いて悪化する見通しである。



(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数50社（前回49社））

「増加」と答えた企業の割合は、18.0%（9社）と増加（前期比+6社）。「不変」は34.0%（17社）と増加（前期比+2社）、「減少」は48.0%（24社）と減少している（前期比▲7社）。

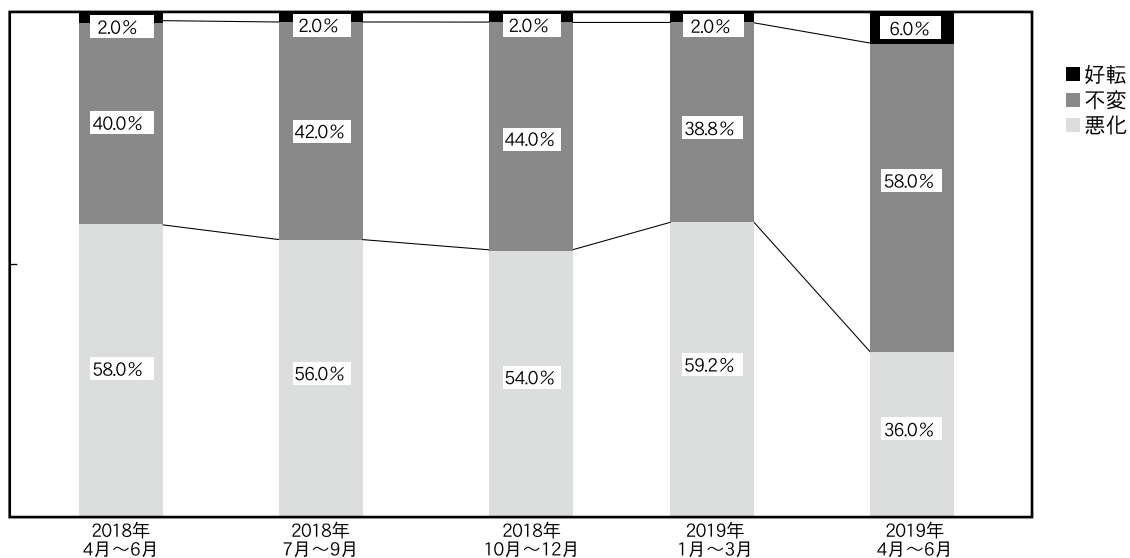


② 採算（採算D I の内容（回答企業数50社（前回 49社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、6.0%（3社）と増加（前期比+2社）。「不変」は58.0%（29社）と増加（前期比+10社）、「悪化」は36.0%（18社）と減少している（前期比▲11社）。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

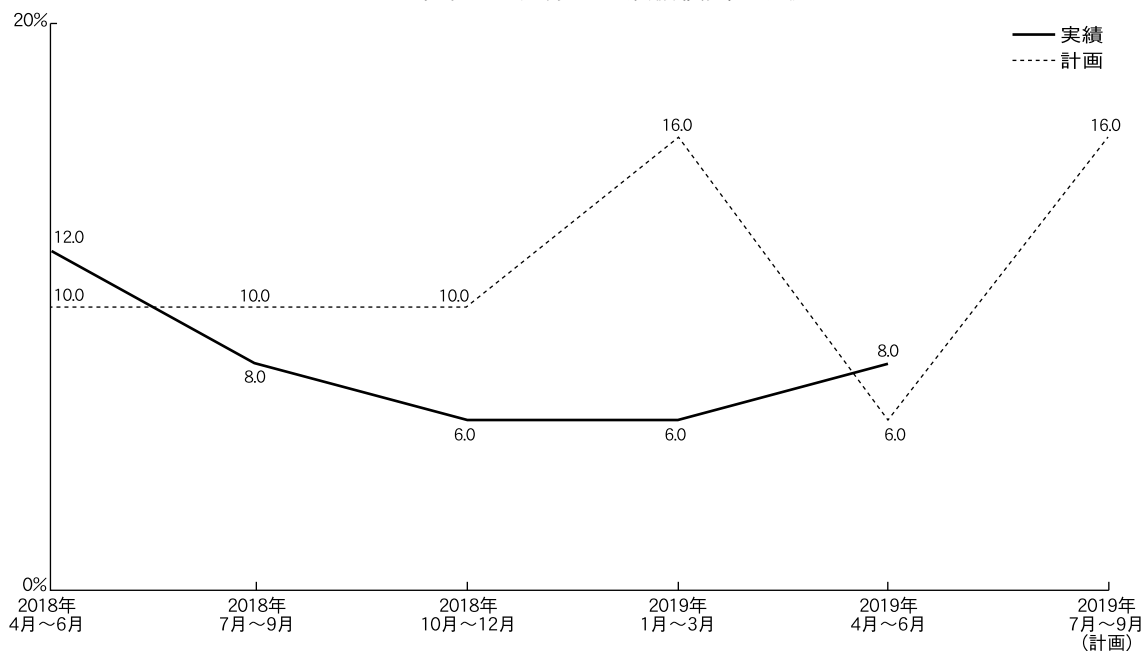


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は8.0%（4社）であった。その設備投資の内容は、「OA機器」が3件、「店舗」「その他」が2件、「販売設備」「付帯設備」が1件ずつになる。

来期の計画については、16.0%（8社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「店舗」が3件、「販売設備」「OA機器」「その他」が2件ずつ、「付帯設備」が1件になる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数47社）

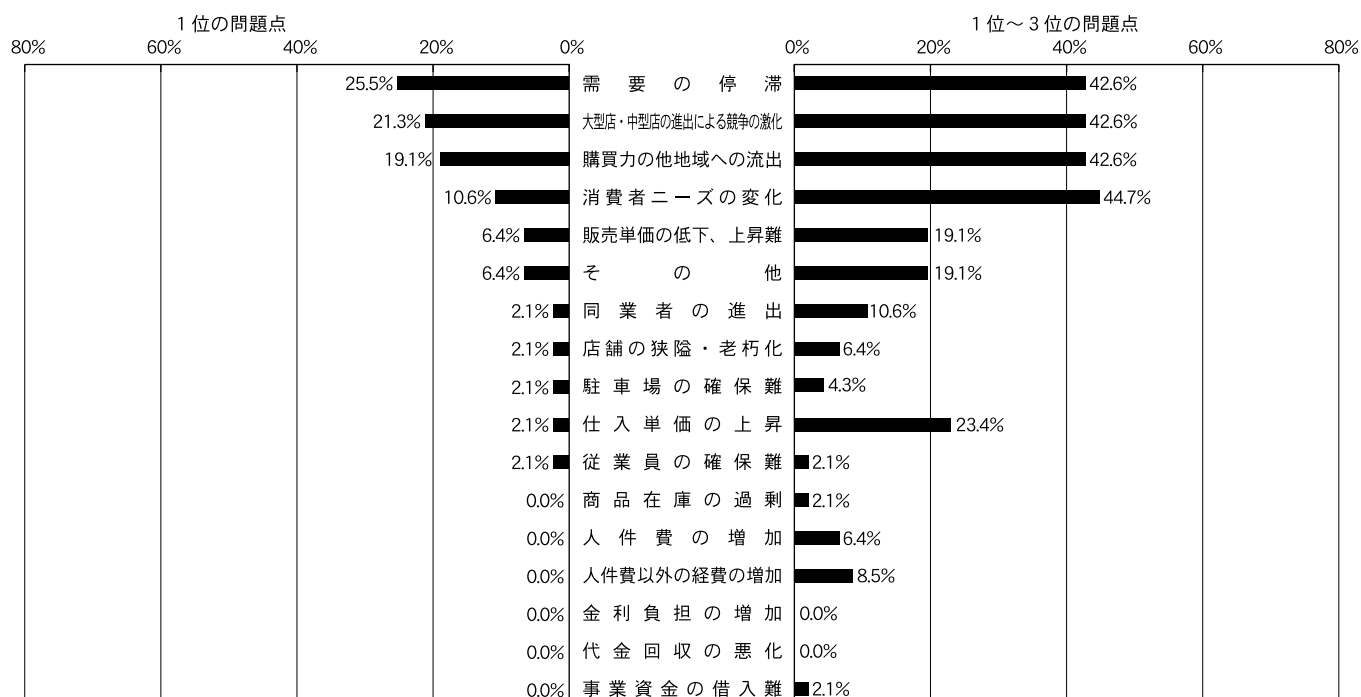
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の25.5%（12社）であり、2番目に多かったのは、「大型店・中型店の進出による競争の激化」の21.3%（10社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」の44.7%（21社）であり、2番目に多かったのは、「需要の停滞」「大型店・中型店の進出による競争の激化」「購買力の他地域への流出」の3項目が同率の42.6%（20社）である。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	12	24.0
飲食物品小売業	17	34.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	15	30.0
合計	50	100.0

従業員規模別

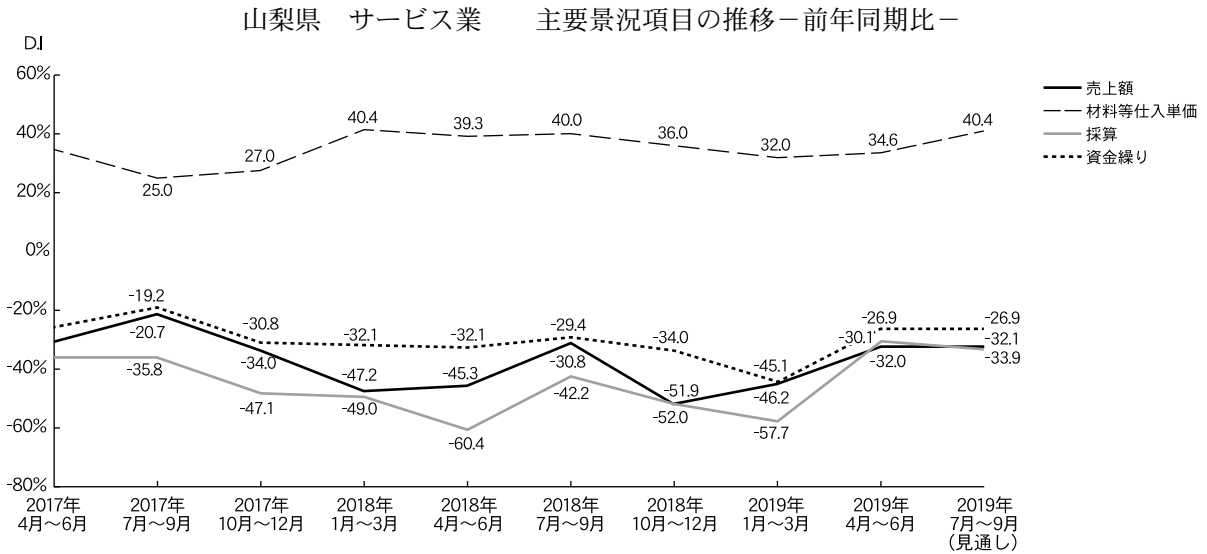
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	47	94.0	41	82.0
3人～5人以下	3	6.0	9	18.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額DIは、今期は▲32.0と前期比で14.2ポイント改善している。来期も▲32.1とほぼ横ばいの見通しである。材料等仕入単価DIは、今期は34.6と前期比で2.6ポイント上昇（悪化）している。来期は40.4と更に上昇（悪化）する見通しである。採算DIは、今期は▲30.1と前期比で27.6ポイント改善しているものの、来期は▲33.9と僅かに悪化の見通しである。資金繰りDIは、今期は▲26.9と前期比で18.2ポイント改善しており、来期も▲26.9と横ばいの見通しである。

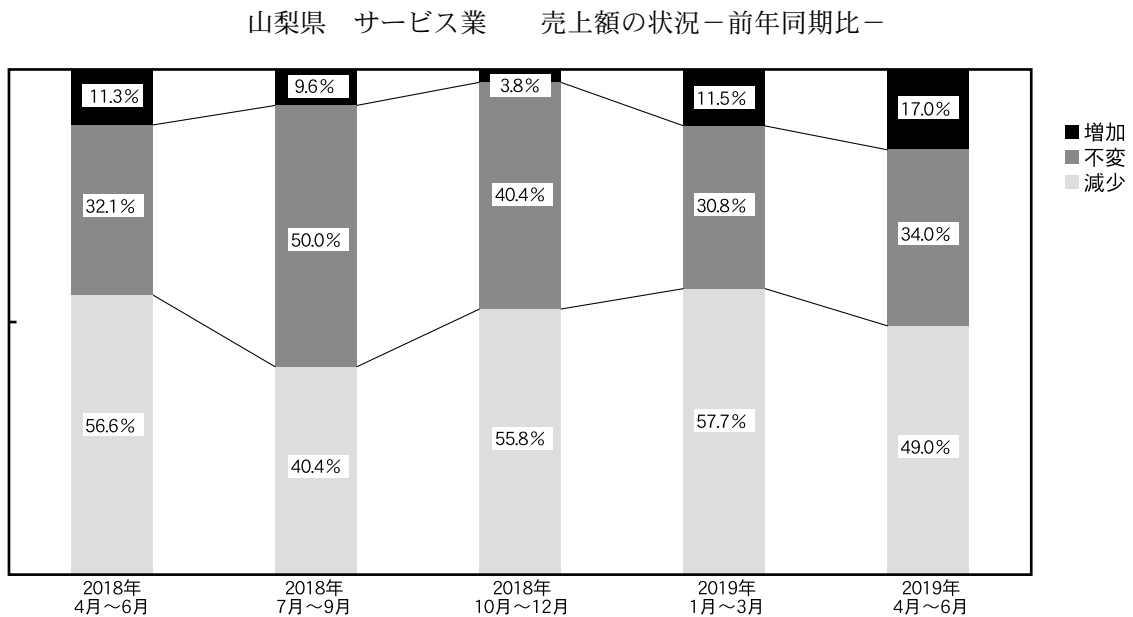
今期は、材料等仕入単価DIを除くDIが改善している。一方、来期も材料等仕入単価DIは悪化の見通しであるが、他のDIは凡そ横ばいの見通しである。



(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額DIの内容（回答企業数53社））

「増加」と答えた企業の割合は、17.0%（9社）と増加している（前期比+3社）。「不変」は34.0%（18社）と増加（前期比+2社）、「減少」は49.0%（26社）と減少している（前期比▲4社）。

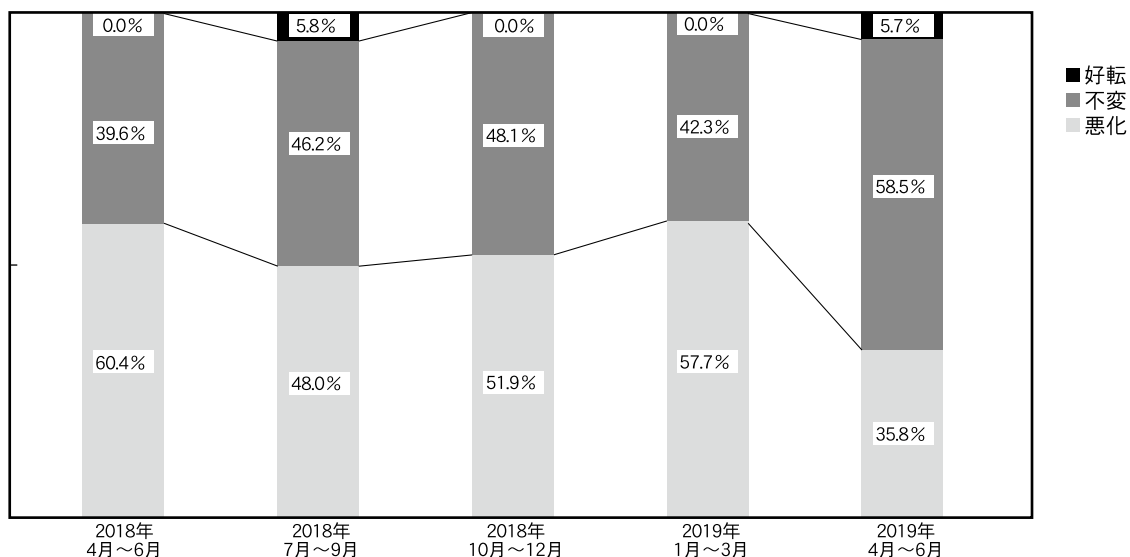


② 採算（採算D Iの内容（回答企業数53社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、5.7%（3社）と増加（前年比+3社）。「不変」は58.5%（31社）と増加し（前期比+9社）、「悪化」は35.8%（19社）と減少している（前期比▲11社）。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

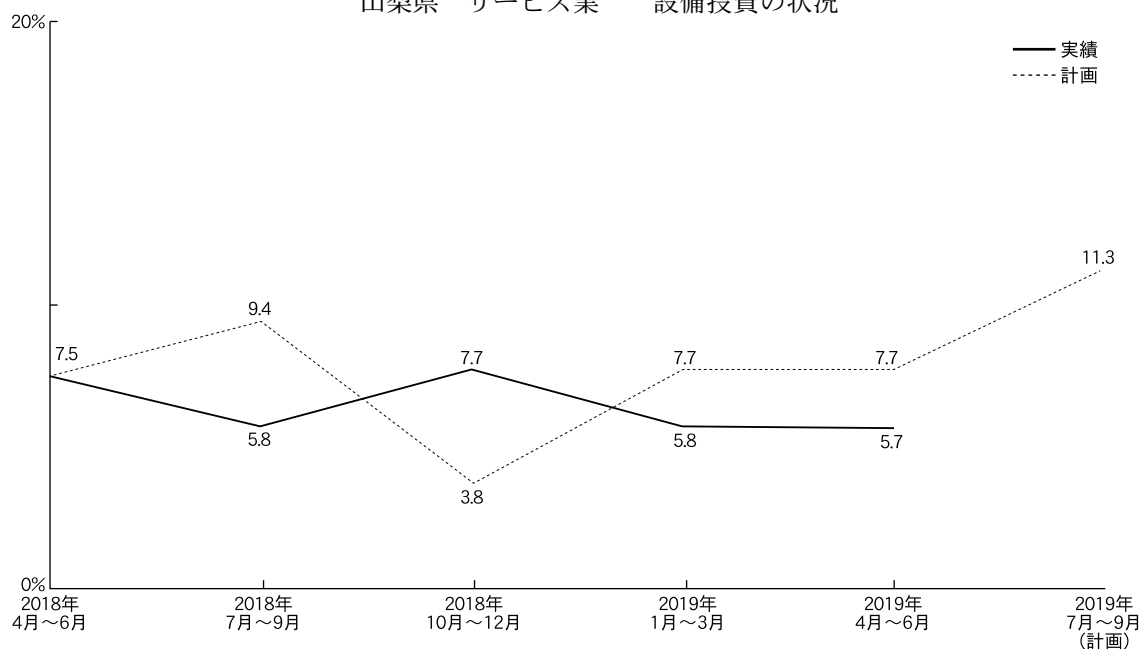


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は5.7%（3社）であった。その設備投資の内容は、「付帯設備」が3件、「サービス」「OA機器」が2件ずつ、「建物」「車両・運搬具」「福利厚生施設」が1件ずつになる。

来期の計画については、11.3%（6社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「サービス」「OA機器」が2件ずつ、「車両・運搬具」「付帯設備」「その他」が1件ずつになる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



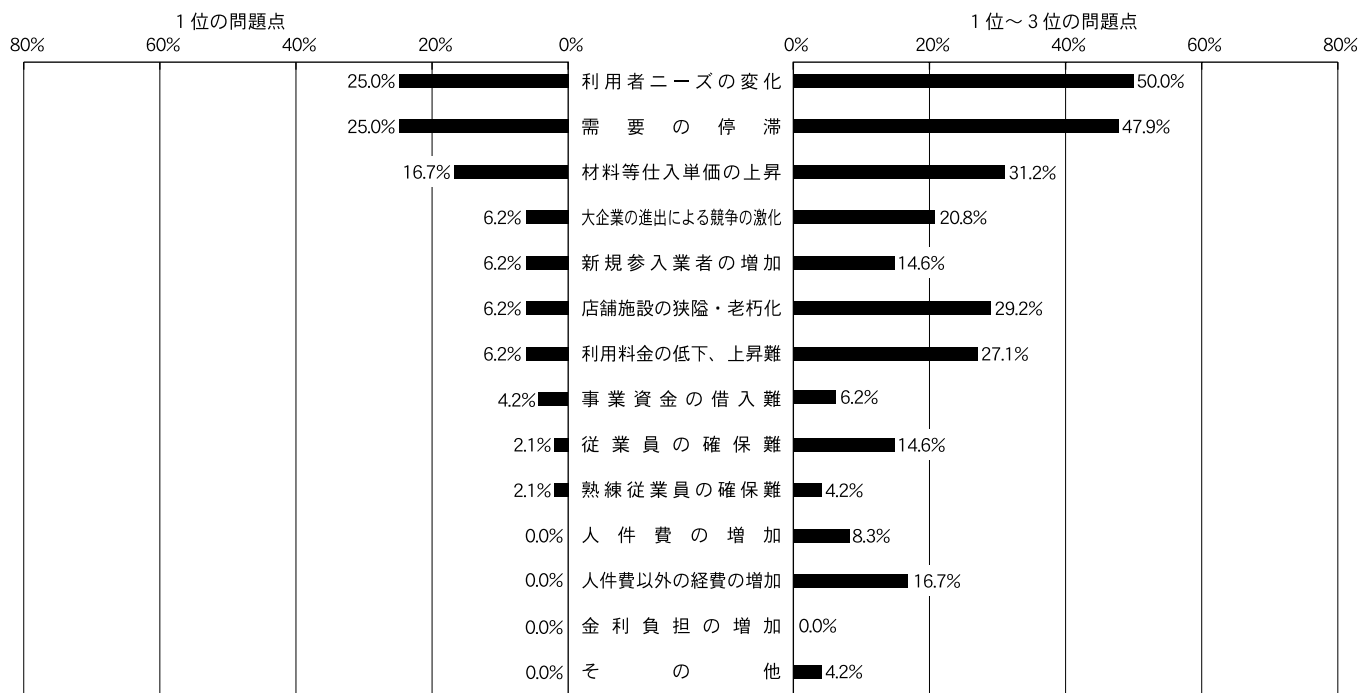
④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」と「需要の停滞」とが同率の25.0%（12社）である。次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の50.0%（24社）であり、2番目に多かったのは、「需要の停滞」の47.9%（23社）である。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	35.8
宿泊業	7	13.2
運送業	2	3.8
自動車整備業	3	5.7
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	3	5.7
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	45	84.9	41	77.4
3人～5人以下	8	15.1	11	20.8
6人～10人以下	0	0.0	1	1.9
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100.0	53	100.0